

# 安曇野市公民館報

安曇野市  
中央公民館  
No.6  
TEL62-4565

## 就任 豊科公民館長に坂内氏 堀金公民館長に平倉氏

4月1日付で新しい公民館長が任命されました。  
▼豊科公民館長 坂内不二男▼穂高公民館長 中村博師(再任)▼三郷公民館長 千國温(再任、中央公民館長兼務)▼堀金公民館長 平倉重則

任期はそれぞれ2年で、公募により選考されました。明科公民館長浅見郁子氏の任期は24年10月31日までです。



豊科公民館長  
坂内不二男

### 「マ・モル」の地域づくり

このたび、豊科公民館長を拝命し文化の香り高い安曇野の地域づくり、地域の皆さんと共に携わることができまことを光榮に思います。

公民館は、市民の皆さんの实际生活に即したさまざまな事業を行うことから、事業の実施に当たりましては、一つ目標をもってその実現に向け努力していくことが大切と考えています。そこで、事業の実施にあたり「女



堀金公民館長  
平倉重則

### 人と人とのつながりを大切に

このたび、図らずも伝統と実績ある堀金公民館長の大役を、己の非力さも顧みず負うこととなりました。

安曇野市合併以来6年を経過した今、市民の一体感について問われています。公民館事業を通じ、その一翼を担えたらとの思いです。自分たちの地域の歴史や文化、先人の想いを知ることがもちろん

4月27日に、くるりん広場で「初心者のためのインターネット安全教室」を開催しました。

### 安全講座でパソコンを正しく理解

穂高立足 山崎たい子

私はパソコンを買って、10数年になります。購入以来、年賀状に写真を複数入れたり、アルバム作り教室に参加してデジカメで撮った写真をまとめたり、ホームページを見たりと、楽しんできました。

安全教室を受講させていただきます。安全教室を受講させていただきます。

正しく理解していただくために、インターネットは便利、でもないと危険ということを強く感じました。この教室で学んだことを今後活かせるように、コツコツ学習していきたいです。

のこと、他地域のことも深く学び、価値観や実践の方法の違いも理解し認め合うことが大切なのではないでしょうか。幸いなことに、最近の堀金公民館事業の講座にも地域を越えての参加者が増えております。多くの方々に関心ある事業を計画・遂行することで、自然に安曇野市が一つであると感じられるよう、また地区館との連携を深め、人と人とのつながりを何より大切にしたいです。



# 公民館事業紹介 明科公民館

明科公民館では、地域の誰もが、いつでも気軽に学べる生涯学習の場として、地域の人と人がつながり絆が深まる公民館を目指し様々な事業に取り組んでいます。

昨年度から、「つながりづくり・健康づくり」を重点目標に掲げて事業の推進を図ってきましたが、今年度もこの目標を継続していきます。現在新設中の新公民館への移転に期待を抱いて、協働による地域づくりの拠点としての役割が果たせるよう、学びと実践を積んでいきたいと思っております。

## みんなが集うスポーツ

昨年度から、ワンバウンドふらばーのバレーの普及に取り組み、年度末には地区対抗の大会を開催しました。今年度は更なる広がりを願い原則毎月第一水曜日に



変形ボールで心がつながる

スポーツ推進委員の皆さんと協力して、講習会を開催し全地区で取り組めます。大人から子どもまで幅広い年齢層が参加できるこのスポーツを地域全体で盛り上げていきます。

また、地区公民館対抗球技大会や、市民運動会なども、地域住民の皆さんの要望に沿いながらスポーツを楽しむ機会とし、健康づくり・つながりづくりを目指します。

## 歴史ある柏樹学級

安曇野市の中でも高齢化率の高さが明科の地域課題として捉え、60歳以上の健康な方を対象とした生涯学習の学級を行っています。30年余継続されてきた伝統を継承し、健康づくり・生きがい探し・仲間づくりを目標にし、様々な分野での学びができるように、プログラムを構成しながら、充実した



押花でフレームづくり

時間を過ごしています。学級で学んだことが、日々の生活に活かされて、健康寿命延伸につながるようにと願っています。

## 文化の香り高い文化祭

文化祭の展示には、地域の小学生から高校生までの出展があり世代間交流の場ともなり、未来を担う子どもの頼もしい力を感じています。一般の展示も、生活の豊かさにつながる質の高い作品ぞろいです。

明科の自然と人情を讃える旧町歌と明科音頭で幕が開く芸能発表は多芸・多才で一年間の成果が発表され、年々レベルの向上が見られ盛り上がりがあります。

その他に特別企画として、地域課題などを取り上げ参加者とともにその課題について考える機会としています。

## 体験の中で育つ子どもたち

「明科みっけ隊」は市内の小学生を対象にした野外体験活動です。明科地域の身近な自然に親しみ、友だちとのつながりづくりや様々な体験を通して、新しい自分発見を目的としています。

その地区の皆さんとの温かな心



長峰山探検



親子のふれあい遊び

の触れ合いができる世代間交流も図られています。

「よもやま」は、未就園児とその保護者を対象とした、社会福祉協議会明科支所の子育て支援事業ですが、公民館の家庭教育支援機能発揮という立場で連携事業として取り組んでいます。

毎回地域の担い手さんによる手作りおやつと子育てアドバイスもあり、参加された皆さんのくつろぎのひとつとなっております。

## 地産地消で美味しいランチを

日本の食糧の自給率は4割弱ということで、将来が危ぶまれます。そんな中で、地産地消をテーマに料理教室を開催しています。

調理に加えて、食の安全や環境問題、農業問題等についても学習をしながら、充実した教室となっています。地域の有志の方々から新鮮な野菜を提供をいただいたり、食に関する情報発信など、実生活に結びついた意義深い時間となっております。

## 多様な生涯学習を

以上の他に、自然と歴史探訪講座、教養講座としての古典文学講座等多様な生涯学習の機会を予定しています。

## 古きを尋ねて

### ④有明山と有明山神社

海拔2268mの有明山は古来、名山・霊山としてその名が広く知られていました。信濃富士とも言われる風格のある姿は、燕岳から続く裏銀座の山なみを背に毅然としてあり、安曇野を象徴する一つとなっています。

昔、有明の里に住みついた人々は、朝夕この山を眺め、何か神秘的な奥深さから、この世ならぬ畏れやおのずから身をただすありがたさを感じ、仰ぎたいものとして、さらには神のような姿を求めて来たと考えられます。そして、山麓を流れ下る中房川からの「命の水」を利用し、



辺りの山野から木材・薪炭・刈藪・獲物等、暮らしを支えてくれる多くを手にし、これらの山野の代表としての有明山に、春は一年の豊穡を、秋にはその実りへ感謝する祈りを捧げてきました。こうした営みは日本のどこの地域でもみられた自然との関わり方でした。有明山神社はそうした願いから生まれたものと考えられます。

明治21年から現在地での造営が始まり、やがて中房川河畔の橋

場の地から移ってきましたが、御神体は常に有明山でした。従って祭りは拝殿の奥の扉をあけて山を拝む神社としては最も古い形で執行されています。また、有形文化財に指定されている神楽殿天井板絵、裕明門や手水舎を始めとする貴重な文化財が守られています。

ところで明治の移建事業推進の中心人物、豊科・寺所の岡村卓一は、有明講を発展させ、大正の最盛期には筑摩を含め信仰者3万戸を数え、真々部の国道沿いや成相等に立つ有明山神社は当時の人々の熱い尊崇の想いを今に伝えています。

有明山はかつて戸放山(岳)とも言われ、日本神話の天の岩戸の話が伝えられています。天照大神のこもった天岩屋戸の扉を、剛力の天手雄命が引き開け、投げ出したのがこの山

に落ちたという内容からの呼称ですが、このシーンに登場する神々は山頂の奥社に祭られています。7月中旬、神職を中心に登り6時間、中房温泉への下り4時間という極めて険しい道を行き、奥社祭をしています。毎年60人程の人が参加しているといえます。

なお、すぐ隣に鎌倉期の不動明王立像をまつる正福寺、少し南東に松尾寺本堂と揃う宮城周辺の地は、心の世界での聖地―祈りいや

### ⑤小正月の伝統行事

#### 「福俵曳き」

安曇野は道祖神の宝庫で、祭りも豊富です。

中でも千国街道の宿場町から発展した成相新田(豊科市街地)に伝わる福俵曳きは、周辺の在(近郊)からの「集客力」を持つ唯一の道祖神祭りとして、市神に通じ特異です。

祭日は小正月にあたる旧暦1月16日(現在1月15日前後)で、近世以来の伝統行事です。文政11年(1828)1月の「安曇郡成相新田町村藤森家仕来留書」に「同日御柱ねせ候ひて猶又だし(福俵)の義は前年の祝儀の有る家へ引き入れ」とあり福俵曳きの次第が今とほぼ同じだったことが分かります。

行事は1月16日の朝、まず祭り青年により御柱が倒され、そこから福俵を外すことから始まり「だし」(神霊降臨の目印)と呼ばれる福俵には多量のわらと種銭が詰められ「陽物」(男性)の呪力で五穀豊穡を暗示し



人間ピラミッド

うな歌をよんでいます。

参詣の貴賤は

次第不動尊(正福寺)

このはんじょうを  
みやしろのやま

ています。

青年たちにより用水でみそぎを受けたあと山車として市中を曳行され、見物人に福をもたらし。途中の人間ピラミッドの所作は重い年貢に耐えた先祖の苦勞をしのぶものであり、大地への俵叩きつけの所作は「母なる大地」の地霊を活性化し豊穡を約束するためのものです。最後に俵奪い合いの綱引きがあり前年慶事のあったお宅に俵が奉納され、関係者を集めての祝宴となります。

このように福俵曳きは「生産神」としての道祖神の性格をよく伝え、大変注目されます。

(豊科成相、信濃史学会会員 高原正文)



# 地区公民館だより

## 三郷地域 中萱地区公民館

中萱地区は豊科地域及び堀金地域に隣接し、三郷地域の北東に位置する戸数約1160戸の、三郷地域にあつては、一日市場地区について2番目の戸数を有する地区です。

地区内には最寄の駅としての大糸線中萱駅があり、また、私どもの公民館の隣には、多田加助を祭った貞享義民社(加助神社)や、近くに、貞享義民記念館もあり、義民の里とも称される地区です。平成23年度は三・一一を始め、日本各地において、多くの災害が起り、絆ということが叫ばれ、また、求められた年でした。

当地方は津波の恐れこそ考えられませんが、何時大きな地震が来てもおかしくないとも言われており、まさかの時に備えての普段からの、この絆の必要性が求められています。

「さまざまな活動・行事を通して、区民の交流・連帯の絆を深め、併せて他人を思いやる

心を大切にしよう、区民共生の地域を目指そう。」を中萱地区公民館目標として、私共は活動をしておりです。

中萱地区公民館の中には、現在、籐手芸や太極拳など30の活動クラブが属しており、日頃の活動を通して、区民相互の絆作りの一面に大きな役割を果たしております。

加えて、中萱公民館では、年間約24の行事を行っており、主なものとして春には「花祭り」や「敬老会」、夏には中萱地区恒例の「夏祭り」、秋には区と共催での「文化産業展」等を行っております。

今年度も敬老会には、地域の70歳以上の方をお招きし、活動クラブの皆さんによる数々のアトラクションに加え、マジック、カラオケやプロ歌手の出演もあり、大いに楽しんでいただきました。

さらに、夏祭りは中萱地区公民館にとっても最大のイベントでもあります。夏の一夜、お子さんから大人まで一堂に会し、多くの出店屋台に加え、数々のゲームや盆踊り、フィナーレの抽選会で盛り上がり、そして幕を閉じました。



文化産業展

秋の文化産業展には地区の企業や団体、保育園の園児の作品をはじめ、多くの区民の作品が展示され、地域文化

の高さを誇れるものと思っております。

これらの行事を通して、より一層の地域区民の皆さんの繋がりがや絆が強くなっていくことを期待しております。

一方、昨年度までは、各部(保健体育部他2部)の任期は2年で、女性学級は1年でしたが、全

## グループ紹介

### 「安曇野」を読む会

読書普及運動の長野県PTA母親文庫に、堀金も参加してまいりました。「本を読む母親の姿から、本好きな子どもになつてほしい」が原点でした。

白井吉見先生は「お子さんには早く本を読む喜びというものを、なんていったって面白くてたまらないという体験を、早くなさるのが僕はいいと思います」と話しています。

母親文庫の会員有志が白井吉見著「安曇野」を読む会を立ち上げ、読み始めました。月1回、1章節を輪読した後、人物像や時代背景等率直に意見交換し、和気あいあい、にぎやかで非常に楽しい会です。



ての部を2年任期に変更し、併せて、1年毎に半数が切り替わる方式に変更致しました。このことにより、毎年半数の部員が継続する形となり、行事等を企画・計画する際の継続性の面等において、種々メリットが出るようになって行くものと思っております。

(中萱地区公民館長 佐治良夫)

相馬愛蔵・良夫妻、荻原碌山等が登場し、難しい漢字や分かりにくい言葉等、勉強している人が説明してくれそうです。

全5巻の大作を13年かけて読み終わり、2回目の読了を楽しみに続けています。

また、白井先生や「安曇野」に関わりのある地に旅行もします。

伊那北高校(旧伊那中学校)、唐木順三の生家、鎌倉成就院(文覚)、東京大学、「桜桃忌」等々です。

新しい企画にもチャレンジしています。「安曇野」に登場する人物名簿を作り始めました。何千人登場しているか、はつきりさせたいという目標ができ、張り切っています。

会員数は19名、安曇野市、松本市、松川村等、新しい会員も加わり、皆さんに支えられています。

(堀金上堀、代表 米倉汎子)